

徳島大学病院地域医療  
連携センター副センター長



久米 博子

質問

50代の夫が大腸がんを診断され、手術ができなため抗がん剤治療を始めることになりました。本人は楽観的ですが、家族はとても心配です。通院の付き添いや体調を気にするくらいしかできませんが、他に「あけられることはないでしょうか。また、困ったときに家族が相談できる窓口はありますか。」

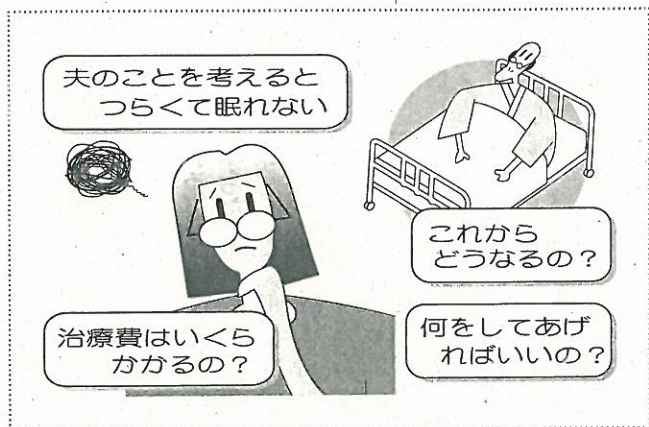
がん何でもQ&A

答え

ご主人のことをとても心配している気持ちがうかがえます。患者ががんと診断されると、その家族の日常生活にも変化が起こります。今まで予想しなかった問題が生じ、家族も不安や悩みを抱えることとなります。相談したくても何が問題なのか、何が分からないのかさえ分からないこともあるかもしれません。

抗がん剤治療の夫が心配

相談支援センター活用を



夫のことを考えるとつらくて眠れない

治療費はいくらかかるの？

これからどうなるの？

何をしてもあげればいいのか？

夫のことを考えるとつらくて眠れない。治療費はいくらかかるの？。これからどうなるの？。何をしてもあげればいいのか？。夫ががんを診断されると、その家族の日常生活にも変化が起こります。今まで予想しなかった問題が生じ、家族も不安や悩みを抱えることとなります。相談したくても何が問題なのか、何が分からないのかさえ分からないこともあるかもしれません。

最後に、奥さまは自分の生活も大切にして下さい。ご主人の世話をしながら、時には自分の時間をつくって下さい。家族は「第2の患者」ともいわれます。家族にも患者と同等か、それ以上に精神的負担が掛かることがあります。患者のことを思うと、家族は自分のつらさを他人に相談することができない。

次に、患者が何をしたいのか、家族として何ができるかを考えてみましょう。最近、本やインターネットなどで簡単に情報を得ることもできますが、その情報が信頼できるかどうかや、ご主人の状態に当てはまるかどうかを見極める必要があります。主治医と一緒に治療法の選択や療養生活を考える、患者や家族は納得できるのではないのでしょうか。

徳島県内のがん診療連携拠点病院となっている医療機関には、相談支援センターという相談窓口が設置されています。ここでは、がん患者と家族からの相談に対応しています。また、県の相談窓口として、徳島がん対策センターが患者総合相談窓口があり、看護師と医療ソーシャルワーカーが相談を受けています。内容は▽現在の治療内容▽生活面▽情報収集の方法▽医療費▽医師とのコミュニケーション▽仕事などさまざまです。患者をはじめ家族や知人、医療機関からも受けています。まずはご相談ください。

「こんなことを聞いて恥ずかしいのですが...」「こんな質問ですがいいですか」といった言葉を耳にしますが、気を遣う必要はありません。疑問をそのままにしておかないことが大切です。まず、病状や治療内容について主治医と相談してみたいか

がでしょうか。▽今はどのような状態か▽どんな薬を使用するか▽副作用はあるか▽治療期間はこのくらいかーなど、聞きたいことは多いと思います。最近、本やインターネットなどで簡単に情報を得ることもできますが、その情報が信頼できるかどうかや、ご主人の状態に当てはまるかどうかを見極める必要があります。主治医と一緒に治療法の選択や療養生活を考える、患者や家族は納得できるのではないのでしょうか。

例えば、治療中の症状や副作用などで食事を作っても食べてもらえないなど、頭を悩ませることがあるでしょう。食べて良くなつてほしいという思いが家族にある一方で、患者は食べたくても食べられないという状況があります。作り方や工夫次第で、患者が「これなら食べられる」「おいしそう」と思う料理があるかもしれません。食事で分からないことがあれば、栄養士に相談もできます。

徳島県内のがん診療連携拠点病院となっている医療機関には、相談支援センターという相談窓口が設置されています。ここでは、がん患者と家族からの相談に対応しています。また、県の相談窓口として、徳島がん対策センターが患者総合相談窓口があり、看護師と医療ソーシャルワーカーが相談を受けています。内容は▽現在の治療内容▽生活面▽情報収集の方法▽医療費▽医師とのコミュニケーション▽仕事などさまざまです。患者をはじめ家族や知人、医療機関からも受けています。まずはご相談ください。

を考えてみましょう。患者を思うあまり、必要以上に手助けしてしまうこともあります。それが患者にとっては不快なことであるかもしれません。▽患者の希望に沿っているか▽他に必要とする支援がないか▽家族がどこまで手助けできるかを話し合いましょう。そうすれば、患者が必要とすることや、家族の手伝いことが分かります。

例えば、治療中の症状や副作用などで食事を作っても食べてもらえないなど、頭を悩ませることがあるでしょう。食べて良くなつてほしいという思いが家族にある一方で、患者は食べたくても食べられないという状況があります。作り方や工夫次第で、患者が「これなら食べられる」「おいしそう」と思う料理があるかもしれません。食事で分からないことがあれば、栄養士に相談もできます。

徳島県内のがん診療連携拠点病院となっている医療機関には、相談支援センターという相談窓口が設置されています。ここでは、がん患者と家族からの相談に対応しています。また、県の相談窓口として、徳島がん対策センターが患者総合相談窓口があり、看護師と医療ソーシャルワーカーが相談を受けています。内容は▽現在の治療内容▽生活面▽情報収集の方法▽医療費▽医師とのコミュニケーション▽仕事などさまざまです。患者をはじめ家族や知人、医療機関からも受けています。まずはご相談ください。

質問募集 がんに関する悩み「徳島がん対策センター」がお答えします。質問内容を詳しく書き、住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記し、〒770-8597 徳島新聞社文化部「がん相談」係へ。紙上に住所、氏名、電話番号は掲載しません。同センターへ電話088(633)(94338)でも平日午前8時半〜午後5時に受け付けています。